



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047-752-0453 植田 進 ☎047-487-9754
伊原 忠 ☎047-488-7207 飯川英樹 ☎080-1239-8132

ホームページへ▶



市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>

共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp

第407号

2019年5月27日

発行

日本共産党

八千代市議会議員団

八千代市大和田新田

312-5

大災害に備えた防災組織の今後について

近年、台風・大地震などによる自然災害が多発しています。災害から身を守るためには、日ごろからの備えが不可欠です。八千代市では、住民自身による自主的な集まりとして、「自主防災組織」がつけられ、阪神淡路大震災の前年には、24組織だったものが、2019年3月現在 153組織 市内全世帯の58%が加入しています。

活動内容も、救護、炊き出し、消火、安否確認など多彩に防災訓練が取り組まれています。その一方、防災訓練への参加者が少なく、防災意識を高めるにはどうすればと模索しているところもあります。日本共産党市議団は、5月防災問題に関して大阪府箕面市を視察してきました。

地域防災の中核「地区防災委員会」を組織

大阪府箕面市では、今から8年前の2011年、それまでの「自主防災組織」から、小学校区ごとの「地区防災委員会」を地域防災の中核として位置づけ取り組まれています。

この防災委員会は、役員会、全体会、そして住民のみなさんと情報を共有して進められています。役員会は、地域で決めた役員が会の運営を話し合います。委員長。副委員長・班長、この役員会には、学校から校長・教頭、市から市職員（校区を担当する「地区防災スタッフ」3名）。

全体会は、役員と自治会・マンション管理組合・各種団体の代表者が情報を共有します。各種団体には、地区福祉会、青少年を守る会、PTA、消防団、赤十字、民生委員・児童委員、老人クラブ、子ども会育成会、青少年指導員など

住民のみなさんには、一人一人が防災の担い手であり、最低限これだけとはして、
①自治会に入る②3日分の水と食料を備蓄する③家の耐震診断を受ける



「地域防災ステーション」を設置

大災害時には、近隣住民の方々による救助・消火活動が必要になります。平時から物資・機材を取り扱う訓練を行い災害に備えるようにしています。

箕面市では、自治会や地区防災委員会からの要望に応じて、市内の公園等に「地域防災ステーション」を整備、このステーションにはジャッキ・ロープや工具セットなどの資材が備えられ、2016年度までに、市内60か所の公園に設置しています。この場所は、災害時の一時避難場所ともなります。八千代市では、小・中学校や自主防災組織ごとに「防災倉庫」が設置されていますが、緊急避難場所（一時避難場所）とは、必ずしも一体化していません。

さらに箕面市で今取り組んでいるのは、災害時要援護者への救助を速やかに行うために、「黄色いハンカチ作戦」、家具転倒防止への補助などです。

日本共産党は災害に強いまちづくりのために、今後とも全力で取り組んでまいります。